

コ ラ ム

濃尾地震について思うこと

鈴木康弘



濃尾地震は活断層が起こした日本で最大級（M8.0）の地震とされる。地震調査委員会によって、「今後 30 年間の地震発生確率が 14%」と推定される糸魚川－静岡構造線では、M8 クラスの地震発生が切迫しているとされている。対応を迫られたライフライン関係機関等に、「あまりに大きな地震規模の予想で対応できない」との発言もあるが、112 年前に同様の規模の濃尾地震が起きている事実は重く、大きな問題を投げかけている。

濃尾地震は、温見断層・根尾谷断層・梅原断層が連動して活動することによって起きたと考えられている。それぞれの活断層の活動履歴は異なるため、毎回このような大きな地震が起きるとは考えにくい。どのような時に連動し、どのような時には連動しないのか？ 連動しない場合には変位量も変わるのか？ これらは糸魚川－静岡構造線の地震規模推定にも関わる大きな問題である。

根尾村水鳥には、現在も濃尾地震の際にできた崖が残っている。これを初めて見た時、「6mの崖というイメージに比べて、大したことない。6m隆起してもこんなもんかぁ。」と思った。しかしその後、この時の印象には誤解があったことを知った。明治時代以降、近くを流れる根尾川の氾濫によって沈降側には2m近い土砂が溜まり、崖の約3分の1は埋められてしまっているのである。断層観察館には、このことを示すトレンチ調査結果が保存されている。